

飛翔再び



撮影地：広瀬川

工藤 るみ (写真部会員)



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電 話 (022) 261-7055
F A X (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 吉田 利弘

昭和40年1月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和39年5月9日に宮城県花山村(現栗原市花山)の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。今年「卯」の年。字形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があると言われております。一日も早くコロナ禍から飛び出し、穏やかな中で充実した活動ができることを共に願いたいものです。

さて、本協会といたしまして、今年はこの区切りとなる60回目の芸術祭を迎えます。関連事業こそ60周年となる令和5年の実施となりますが、その準備に取り掛かればなりません。各部門の知恵を集め、実りあるものになりたいと考えます。

叡智を結集 さらなる前進



宮城県芸術協会理事長
吉田 利弘

また、本協会が幹事を務めている東北・北海道芸術文化団体協議会が今年、創立50周年を迎えます。わたしたちは芸術文化の重要性を認識しておりますが、それを広く多くの方と共有することによってこそ、一層生きて働くものと考えます。その敷衍化を図る

ため、7月14日に仙台市で「アートの時代だ！芸術文化が拓く、わたしたちの(社会)未来図」をテーマにシンポジウムを開催いたします。芸術文化が暮らしを支える欠かせない基盤であることを探り出し、芸術文化新時代の到来と実践を呼び掛けるメッセージを発信します。

本協会は、それぞれの道に卓越した会員で構成されており、芸術祭をはじめ、あらゆる活動が内実豊かで格調の高いものになっています。ただ、運営においては帆を順風を受けている状況ではありません。そのためにも皆さまの叡智を結集しながら、さまざまな課題を乗り越え、状況に最適な方法を探りながら、四方よし(会員、部門、協会、県民)の精神を一緒に貫き、新しい年へと歩み出したいと存じます。

結びに、会員皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。年頭の挨拶いたします。

着実な前進、定着を確信 第3回杜のみやこ工芸展／東北らしい作品に期待も

第3回杜のみやこ工芸展が、第59回宮城県芸術祭工芸展に合

わせて、11月9～13日の日程で、仙台市宮城野区のTFUギャラ

リーミニモリを会場に開かれ

た。応募者、応募点数は昨年並

みを確保し、来場者数は第1

回を200名以上も上回った。

「河北工芸展」を継承する形で、

当協会と河北新報社が連携して



大賞受賞作品

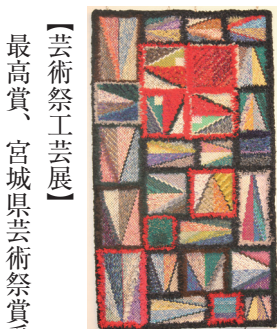
【杜のみやこ工芸展】

最高賞、杜のみやこ工芸展大



会場風景

賞受賞作品(染織)。作品名は「青



宮城県芸術祭受賞作

【芸術祭工芸展】

最高賞、宮城県芸術祭受賞

作品(染織)。作品名は「海・空



会場風景

光」。確かな技術と思いが結実、

説得力のある作品に仕上げた。

感動的な一作。

多様な工芸の魅力を発信した。

第2部は文芸祭のメイン。入

賞者が紹介された後、芸術祭

賞、宮城県知事賞、河北新報社

賞などの受賞者8人が登壇。感

懐と朗読で喜び

を伝えた。コロ

ナ禍で、懇親会

の開催は見合わ

高など応募取り下げ等で審査に

加われなかった人もいた。

若者の応募が増え、活躍も目

立ったのは、うれしい傾向であ

り、最大の収穫かもしれない。

確かな技量を背景に斬新な陶磁

で新風を吹き込み、最高賞に次

ぐ河北新報社賞を受賞したの

は、20歳の大学生。昨年の新人

賞をばねに大きく飛躍した。今

回の新人賞は18歳。力強く伸び

やかな陶磁が注目を集めた。

審査員を務めた漆芸の杏澤則

雄氏(日展会員、現代工芸美術

家協会理事)は「陶磁、漆の実

力は十分。幅の広さも本展の特

徴だが、より地域の素材を生か

した東北らしい作品を期待した

い」と指摘。外館和子氏(工芸

評論家、多摩美術大学教授)は

文芸祭、3年ぶり公募復活 受賞者、感懐・朗読粛々と

「染織、陶磁のレベルは高い。

年々、技量を高めて入賞に至っ

た方もいて、本展開催の意義を

見る思いがする」と評価した。

開場式は11月9日、ミニモリ

のエントランスルームで行わ

れ、新型コロナウイルス感染の

流行で見送られてきたテーブ

カットを初めて次第に盛り込

み、開場に華やかさを添えた。

第59回宮城県芸術祭文芸祭が

10月22日、東京エレクトロン

ホール宮城の会議室で開かれ

た。新型コロナ禍により中止と

なっていた文芸祭の公募が3

年ぶりに復活。表彰式もあり、

華やいだ雰囲気包まれた。

文芸祭は、第7回文芸作品公

募表彰式、文芸受賞者の感懐

と朗読の2部構成。第1部は、

玉田尊英部長のあいさつ、吉田

利弘理事長の祝辞の後、詩、短

歌、俳句、川柳、エッセーの分

野ごとに講評。それぞれ、最優

秀賞、優秀賞、佳作の順に表彰

状等が贈られた。

応募作品は、詩が一般の部5

編、ジュニアの部5編、短歌が

74首、190首、俳句が92句、

184句、川柳が49句、11句、

エッセーが一般のみ12編。参加

者は一般の部109名、ジュニ

アの部373名。ブランクがあ

り、応募状況が心配されたが、

今後につながるまずまずの点数

を確保した。入賞、入選作品は

文集にまとめ、発行された。

第2部は文芸祭のメイン。入

賞者が紹介された後、芸術祭

賞、宮城県知事賞、河北新報社

賞などの受賞者8人が登壇。感

懐と朗読で喜び

を伝えた。コロ

ナ禍で、懇親会

の開催は見合わ

第59回宮城県芸術祭文芸祭

ナ禍で、懇親会

の開催は見合わ

せた。

努力結実、70名に栄誉 芸術祭表彰式、あふれる祝意

第59回宮城県芸術祭の表彰式が11月28日、ホテルメトロポリタン仙台で行われた。各分野で入賞した会員70名と、各部門で長年の功績が認められた10名が表彰された。新型コロナウイルスの開催を見送り、規模を縮小しての実施となったが、昨年について茶話会を取り入れ、お祝いの雰囲気醸し出した。

表彰式は昨年を踏襲する形で実施。受賞者や功績者のほか、協会及び部の役員と、共催、賞交付団体代表者らに出席者を限定し、約120名にとどめた。

芸術祭会長で当協会の吉田利弘理事長が冒頭のあいさつで、



表彰式

異例の「夏開催」となった催事の実績を報告し、今回は茶会を含めて中止のない事業の完全実施を目指す決意を強調。何事もなくコロナ3年目の芸術祭をほぼ終えられる成果を踏まえ、共催団体の理解と協力に謝意を表しつつ、受賞者の努力を称賛し、心よりの祝意を述べた。

名誉会長の一力雅彦河北新報社代表取締役社長（鈴木紳一常務取締役・代理）も、受賞者の栄誉をたたえ、併せて、写真と工芸の二つの共催事業の名前を挙げながら、連携効果による芸術文化振興への手応えを語った。

賞状、副賞（楯等の記念品）の授与は、各賞の代表者が壇上に進み、賞を交付する代表者から受け取る方式を踏襲。各賞の授与に続いて、功績者を表彰した。令和4年度地域文化功労者表彰の1名（5面に関連記事）と文化の日表彰・教育文化功労の4名も併せて紹介し、記念品を贈り、それぞれ大きな拍手で受賞をお祝いした。

茶話会の実施は2年目で、表彰式になじんだ印象。和やかな雰囲気の中、お祝いの会話が各所で交わされ、多少なりとも祝宴らしさを漂わせていた。

第59回宮城県芸術祭来場者数 (人)

事業名	入場者数	事業名	入場者数
開会式	86	絵画展(会員展)	5,013
華道展	1,784	音楽コンクール	402
書道展	2,870	カラオケコンサート	
写真展・フォトサミット in Sendai 2022	1,650	文学散歩	23
絵画展(公募の部)	1,219	長唄演奏会	148
彫刻展・彫刻公募展	1,219	文芸祭	95
		音楽会	378
		工芸展	1,919
		表彰式	115

併催事業		参加事業	
事業名	入場者数	事業名	入場者数
第3回杜のみやこ工芸展	1,919	歳末たすけ合い第59回各流舞踊大会	734



長唄演奏会

きが奏でる三味線の音色が、秋の風情とマッチ。長唄の独特の響きがホールを

3年ぶり長唄演奏会 工夫の演出、コロナ乗り越え

第59回宮城県芸術祭の一環、長唄演奏会が10月16日、トークネットホール仙台小ホールで開かれた。新型コロナウイルス禍で、前回、前々回と見送られており、3年ぶりの復活公演となった。

演目は「新曲浦島」「四季山姥」「浦島」「神田祭」の4作品。江戸末期から明治期の名曲をそろえた。長年、鍛え込んだ朗々とした唄と、見事なバチさば

包み込み、伝統芸の神髄を堪能するに十分だった。

途中、特別企画として、三味線文化譜宗家・六世家元の杵家弥七さんによる講演を実施。家は「長唄、その魅力」と題して約20分、優しく解説した。

中止の間、会員の高齢化がさらに進み、感染懸念から集合稽古にも時間を割き難い状況もあった。プログラム編成にも苦慮したが、運営委員らの実働部隊を中心に、復活に心血を注いだ。

久々の舞台上に緊張を隠せなかったが、体にしみ込んだ芸は本物。慣れたいつものホールが至芸を支えた。席を埋めた約100人から、感動と感謝の大きな拍手を浴びていた。苦難を乗り越え、演奏会をや

功績者表彰・名簿

◇功績者表彰を受けた方々(敬称略)【華道部】山田春楓(草月流)【洋楽部】佐々木隆二、新藤典子【茶道部】守宗玲(表千家)、大橋宗恵(江戸千家)、五島桃苑・竹丸京葉(煎茶道三彩流)、三河南朋(織田流煎茶道)、根本仙喜(大日本茶道学会)、樋渡宗広(遠州流茶道)



ねた熱演に洋楽ファンもうっとり。芸術の秋、珠玉の名演を楽しまむ至福の時間にまどろんだ。

珠玉の名演、至福の時間

宮城県芸術祭音楽会

第59回宮城県芸術祭音楽会が10月28日、日立システムズホール仙台・コンサートホールであった。新型コロナウイルス禍が幾分落ち着いたことに伴う入場制限の緩和もあり、コロナ以前に近い入場者で盛り上がった。

洋楽部のプロデュースで、テーマは「20世紀の音楽の夜明け」19世紀後半から20世紀前半の音楽。声楽(ソプラノ)とピアノの組み合わせを中心に、プロコフィエフやマーラーの名曲はじめ、プログラムは多彩。2台のピアノ演奏、ギター、ヴァイオリンの独奏もあり、弦楽三重奏で締めくくった。

出演は日頃、意欲的な活動が目立つ15人。平時に近い演奏会を意識し、いずれも意気込み十分で臨んだ。日々、精進を重ねた熱演に洋楽ファンもうっとり。芸術の秋、珠玉の名演を楽しまむ至福の時間にまどろんだ。

秀作2点、鑑賞に深み 芸術祭受賞者作品展

第59回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が11月30日〜12月6日、東京エレクトロンホール宮城の展示室で開かれた。当協会と宮城県民会館管理運営共同企業体（公益財団法人宮城県文化振興財団・東北共立・陽光ビルサービス）の主催で、絵画展（会員）と絵画展（公募の部）の受賞者が受賞作と近作等を1点ずつ出品する、年の瀬恒例の企画展。会員21人、公募の部の7人の秀作、計55作品（公募の一人、新作のみ出品）が会場を彩った。受賞作と近作等を対比できる「楽しさ2倍」の展示会。作品は風景画、人物画、静物画、そして具象、抽象の画風も幅広く、それぞれの2作品も、同系統の似通った作品に交じり、題材の異なる作品があり、作家の個性を感じながらの鑑賞機会は、まさにぜひいたくのひとつだ。

「素晴らしい作品ばかりで、心の渇きが癒された気がします」と、マ

スクの奥の目元に笑みをたたえる女性。入場者らは、この季節特有の慌ただしさをしばし忘れ、秀作がそろう絵画の芸術空間に浸っていた。

「定禅寺通」表情豊かにフォトコンテスト展

第9回定禅寺フォトコンテスト展（公益財団法人宮城県文化振興財団、宮城県主催、当協会共催）が12月12〜18日、東京エレクトロンホール宮城の展示室で開かれた。杜の都仙台を象徴する「定禅寺通」を舞台に、祭りや景観などで魅力を写す公募展。初冬の風物詩・光のページェントが始まり、華やこの季節恒例の催事で、今回は入賞・入選作39点（22名）が展示された。今年には新型コロナウイルス禍で中止されていたジャズフェスティバルが復活。撮影機会が広がった。応募点数は156点に上り、創意工夫、発想、着眼が広がり、作品がより多彩になった印象だ。

定禅寺通は仙台市の主だった祭りのメイン会場で、景観とともにその表情の豊かさは群を抜く。「地域の宝」を1枚の写真で切り取って魅せる写真愛好家らの技量も確かだ。足を運んだ市民らは、いずれ劣らぬ秀作を鑑賞。満ち足りた思いを味わった。

第59回宮城県芸術祭工芸展 受賞者

Table with 3 columns: 賞 (Award), 作品名 (Work Name), 氏名 (Name). Rows include awards like 宮城県芸術祭賞, 宮城県知事賞, etc.

第3回杜のみやこ工芸展 受賞者

Table with 3 columns: 賞 (Award), 作品名 (Work Name), 氏名 (Name). Rows include awards like 杜のみやこ工芸展大賞, 河北新報社賞, etc.

シンポジウム、7月14日に 芸文協創立50周年記念事業

当協会が加盟する「東北・北海道芸術文化団体協議会（芸文協）」（会長・吉田利弘理事長）の創立50周年を記念するシンポジウムの実施要領が固まった。開催は7月14日で、会場は仙台国際センター大ホールなどを予約。芸文協の総会に引き続いて、シンポジウムを開く。

芸文協は2年交代の輪番制で幹事を回しており、当協会が「会長県」として、記念事業を主管。中心となって事業計画を立案、加盟団体の了承を得た。

新潮流的な動きにも着目し、幅広い視点から芸術文化の意義を掘り下げること、その価値が想像以上に大きい事実が気付き、力を得て振興の機運を飛躍的に高める契機とすることを開催理念に設定。その趣旨にかなうキーマンとして、著作家の山口周氏に基調講演を依頼し、日程調整で期日が決まった。

テーマは「アートの時代だ！芸術文化が拓く、わたしたちの（社会）未来図」。芸術文化の

力を「健康」「企業」「地域」の三つの側面から紹介、「人・経済・社会」を支える「欠かせぬ基盤」と強調する。基調講演を補強する事例報告者として、

（公財）音楽の力による復興センター顧問（元代表理事）の大澤隆夫氏、Reborn Art Festival (RAF) 実行委員会事務局長の松村豪太氏が出席。ヤマガタデザインの山中大介代表取締役については

取り組みを事前取材、アートの通じる企業経営の実例として紹介する。精神的な豊かさや生きる力、心の癒し等の本筋的でオーソドックスな役割の重要性を押し

えた上で、脚光を浴びつつある新機軸的な評価の視点を提示。ある種の「覚醒」を通じて、芸術文化活動に携わる関係者が自信と使命感を新たに、振興に向けた取り組みの先頭に立つと

もに、関心と機運を高めるための呼び水とすることを狙うものだ。

7県道などの後援を予定。広報面で河北新報社が全面協力する方向だ。予算は構成団体の負担金のほか、公益財団法人宮城県文化振興財団の助成が確定。さらに実績のある団体の支援を期待し、賛助会員等の企業にも協賛を呼び掛ける。成否のカギを握るのは、会員らの理解と協力。積極参加でシンポジウムを盛り上げて、会員はもとより行政や企業等の意識改革、発想転換を促し、振興ムードの高まりにつな

げたい。

「北斗」47号発行
コロナ下の活動報告

東北・北海道芸術文化団体協議会の機関誌「北斗」の47号が2月に発行される。1500部、各団体に一定数、配布される予定。幹事（会長）を務める当協会が主管、「コロナ禍の下の文化芸術活動」を特集のテーマとした。

加盟する7団体の試行錯誤、苦闘が伝わる内容。中止を含め、かつてない難しい対応を強いられたが、苦境の振り返りとともに、今後の新たな難局を乗り切る上で、糧になり得よう。

地域文化功労者に雲石氏 前理事長、文芸（川柳）に貢献

文化庁の令和4年度の地域文化功労者表彰の発表があり、当協会の前理事長で名誉会員（文芸・川柳）の雲石隆子氏が被表彰者に選ばれた。長年、芸術文

化をはじめとする地域文化の振興に功績のあった個人

人、団体を文部科学大臣がたたえる名誉ある表彰。今回、宮城県関係では3個人・団体が輝いた。

雲石氏は東松島市生まれ。郡山市に住んでいた折、川柳と出会い、仙台市に戻ってから「川柳宮城野社」に参画。以降、研鑽の日々を重ね、現在、川柳宮城野社代表、月刊川柳誌「川柳宮城野」主幹。宮城県川柳連盟

代表的な川柳作家として全国的に活躍する一方、当協会の役員も歴任。社団法人当時の副理事長、公益法人移行後は執行理事、そして理事長を2022年5月まで2期、4年務めるなど、当協会の発展を通じて、宮

城県の芸術文化の向上に貢献している。芸術祭賞、宮城県教育文化功労章などの表彰を受けている。

雲石氏は「予想しない荣誉に驚いています。理事長を退いたものの、県外からの川柳の選考要請もあり、忙しい日々を過ごしています。幸い、健康を維持できており、いましばらく精進を重ね、社会の求めにこたえたいと思います」と喜びとともに、今後の活動継続への意欲を語った。



雲石隆子氏



きる最初で最後のリスタートの機会。第60回宮城県芸術祭の記念の年に節目を迎えた会員から、思いあふれる年賀状が届いた。今年は「癸卯（みずのと・う）。ウサギの大きな耳で「聞く力」を發揮し、その「跳ねる力」で再出発の飛躍を期待したい。

「還暦」会員

新年明けましておめでとうございませう。入会を機に華道以外のさまざまに芸術に触れ、諸先輩方の渾身の作品に感動を頂いております。コロナ禍にあつて、活動にも制限の多い中、今は力を蓄える時と発想を変え「自主トレ」に励んでおります。本年も協会と会員の皆さまに

現在「自主トレ」中 華道部（本原遠州流） 佐藤 一泰

とりまして、輝かしい年となりますようお祈り申し上げます。

新年明けましておめでとうございませう。卯年がスタートいたしました。今年「癸卯」にあたる年、次へと向かっていく年です。ここ数年はコロナ禍の中、制限を受け「年」にしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

次へと向かう年に 洋楽部 三野宮まさみ

た時期もありましたが、あたり年といわれるこの年を、初心を覚えながらも、どんなあたつて進んでいく

子どもが独立し、夫と共に未知の地域に終の棲家を決め、国内外12回目の転居で宮城にきたのが5年前。この協会にも所属したことのない私が初めて入会したのが宮

新時代を拓きたい 洋楽部 島 泰子

が増えつつある新時代を、皆さまと共に拓きたいと思っております。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。世の中はコロナ禍が続いていますが、音楽もようやく息を吹き返してきており、うれしく思います。しかし、胸が痛くなるような世

良き歌い手へ精進 洋楽部 中村 敦子

界のニュースが駆け巡る毎日です。非力ながら、どこかでどなたかの一助になれるような良き歌が歌えてまいりたいと思っております。

新春のお慶びを申し上げます。振り返れば、幼少の時分、祖母に導かれてお箏の道に入りまし

「和」を大切に精進 邦楽部（三曲） 渡辺 一弘

た。一途に取り組んでまいりましたが、本年、還暦を迎えることになり、大切な、今後とも精進してまいりたいと思っております。

芸協写真部の立ち上げに尽力された大先輩で友人の大内四郎さんが3年前、93歳で旅立たれました。先輩

先輩の意思を継承 写真部 伊藤トオル

亡くなられた翌年に入会したわたしは、氏の意志とかなえたかつた意思を引き継いで、宮城の写真界のため

昨年には皆さまに大変お世話になりました。お世話していないという方も、何かのつながりでお世話になつて

つながりを大切に 写真部 山本イサム

広がりたい。一人じゃないって素敵なことだから。逆風吹き荒れる容易ならざる昨今ですが、新しい年が皆さまにとりまして、幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

年賀状を寄せていただいた皆さま、ありがとうございます。協会共々、節目を輝ける1年にしてまいります。

癸卯 正 賀

（「はなやま」編集委員会）

事務局日誌

会務報告

【第2回部長会議】12月12日
【第4回理事會】12月19日
【第3回部長會議】1月16日

☆第40回記念メサイア演奏会(全曲演奏)
☆第18回ALL NIPPON D.A.T.E.クラシックバレエコンペティションMIYAGI

withピアノ
sendai music place ROOTS
☆第18回ALL NIPPON D.A.T.E.クラシックバレエコンペティションMIYAGI

◇第48回現代童画展
◇第75回塩竈市美術展
◇第30回宮城シニア美術展

☆歌いつがれゆく日本の歌
☆第41回「日本の調べ」演奏会

☆陽だまりアンサンブルコンサート
☆レパートリーコンサート10

☆みやぎを魅せる書展II
☆第84回河北美術展

受贈書()は寄贈者
『句集 鰻捕り』(及川奈奈男)

☆杜の都のアート展
☆仙台ピアノデュオの会会員による第22回デュオコンサート

☆東北書道新春選抜展
☆宮城県美術館

☆仙台市シルバースター
☆みやぎを魅せる書展II

『句集 春満月』(佐々木潤子)
『忍冬一短歌にときめきながら』(上林節江)

☆仙台ピアノデュオの会会員による第22回デュオコンサート

☆仙台市太白区文化センター
☆自由学園明日館

◇(事務所に連絡があったもの)
◇第9回日展

謹弔
絵画部(洋画)
丹野 三夫 殿

☆第46回一般社団法人二科会写真部東北地区公募展

☆立システムズホール仙台
☆震災にもコロナにも負けないぞ！コンサートvol.3

◇(第四科工芸美術)▽入選 桑原リエ
◇第75回記念二紀展

邦楽部(三曲)
三浦 韻山 殿

☆第15回河北小中学生書道展
☆第20回歌奏会

☆高橋麻子企画 音楽の旅 第17弾 弾くモーツァルトピアノソナタ全曲演奏II

◇第69回日本伝統工芸展
◇入選 岩井純、安藤令子、松本幸恵

洋楽部
大泉 勉 殿

☆第30回宮城シニア美術展
☆宮城県美術館

☆常盤木学園高等学校
☆三味線インスタトルメンタル

◇第89回独立展
◇会員推挙 星健悦▽会友賞 本田崇▽入選 安達秀子、大坂祥春、数本奈智子、兵藤由紀子、帆刈清治、星健悦、本田崇、町田美野、三浦一博、目黒喜三郎

賛助(個人) 後藤 東陽 殿
写真部 竹内加代子 殿

けやきの譜

新しい年が始まりました。不透明な未来の平穩を願って神仏に祈るのは誰しも同じでしょう。それにしても、性懲りもなくパワーゲームとマネーゲームにうつつを抜かすのは人類の性なのでしょうか。中国のゼロコロナ政策の失敗が、終息に向かうかに見えたコロナ第8波の行く末さえ分からなくしてしまつたようです。独裁政権の綻びに映ります。中国からの入国を制限する世界の動きも当然と言えば当然ではないでしょうか。ロシアとウクライナの戦争報道は、鵜呑みにするわけにはいきません。戦中の日本が統制したように、報道にプロパガンダの疑いを持たなければ、正しい現実は見えてこないのではないのでしょうか。この戦争は、グローバルイズムが悪化させる世界的インフレ、相互依存の経済活動の停滞など、様々な不都合を顕在化させています。あらわになつた負の側面の一方で、誰が利益を得ているのでしょうか。こうした事態に芸術はどのように立ち向かえるか、真剣に思考しなければならぬのではないのでしょうか。(英)